

第2回 第7次川越町総合計画後期基本計画 総合計画審議会

日 時：令和7年3月4日（火）午前10時から

場 所：川越町役場4階 全員協議会室

出席者：大塚俊幸（会長）、加藤志保子（副会長）、寺本清春、杉本雅照、早川茂樹、
水谷俊治、川村智子、寺本芳隆、石川栄治、伊井雅春、川村泰代、三村宗一、
高柳初、伊藤天、橋本鉄二、小川剛、先浦宏紀（敬称略）
事務局（吉野課長、寺本、竹尾）
地域問題研究所（杉戸、藤、川口）

事 項

1. あいさつ
2. 議 事
 - ・住民意識調査の結果について
 - ・実績評価について
 - ・今後のスケジュールについて
3. その他

《議事要旨》

開 会

事務局（竹尾）

- ・只今より第2回川越町総合計画審議会を始める。
- ・川越町総合計画審議会規則第6条第2項の規定で、委員の過半数以上の出席が必要となるが、本日は委員総数17名のうち全員出席しているため、本審議会が成立することを報告する。

1. あいさつ

大塚会長

第2回の審議会ということで、町民の皆さんにお願いして回答していただいた住民意識調査の結果、行政の実績評価としてこの5年間の事業がどこまで進行して、何が達成していないか、それを踏まえて今後どうしていくのかというご意見をいただきたい。

2. 議 事

（住民意識調査の結果について）

大塚会長

- ・議事1の「住民意識調査の結果について」事務局より説明をいただきたい。

事務局（寺本）

- ・資料1（住民意識調査報告書）及び資料2（満足度と重要度の散布図（前回調査との比較））に沿って、一括して説明。

大塚会長

- ・前回とやり方等が異なっている箇所もあり経年変化については注意する必要があるが、アンケートの内容について町民の皆さんが川越町の住みやすさ、将来のまちづくりについてどう感じているか、何か質問、感じた点などはあるか。

寺本清春委員

- ・上水道や下水道の整備は満足度が高いが、安全・安心な歩行環境の整備、地震・津波対策についてはどこまでやれるかと思う。
- ・ごみの分別収集、減量化・リサイクル活動の満足度の低さは最終処分が四日市市で行われるのであれば、四日市市方式でやれないかという思いがあるのではないかと思う。
- ・町では生ごみの堆肥化、ペットボトル等は資源ごみとしてリサイクルに取り組んでおり、ごみの排出量は、県内で最も少ない。SDG s やカーボンニュートラルなど、環境に優しい取り組みを町民、子どもたちにPRして、理解していただけるよう、行政、議会もしっかりとやっていく必要がある。
- ・家庭ごみの分別や出し方について手間がかかるという認識があると思うが、一度緩めてしまうと、なかなか元に戻しにくく、環境への配慮の必要性を理解していただいて分別収集に協力願いたいと思う。

大塚会長

- ・重要な意見であるが皆さんはいかがか。
- ・川越町が環境に配慮して取り組んで、町全体の環境意識が高まっていけばよいが、反対に面倒くさいとなってしまうと、環境施策が前に進んでいかない、という趣旨かどうか。

寺本清春委員

- ・堆肥化については、家庭菜園や畑などへの利用に加え、堆肥の袋詰めは障害者の雇用にもつながっており、生ごみの排出抑制などに手間をかけていることが、いろいろな循環の中で成功例になっていると思う。生ごみは、90%程度水分といわれており、焼却するとなると、水を燃やしているようなもの。町がどういった考えでやっているかを住民に理解してもらえようように情報発信していく必要がある。

川村泰代委員

- ・堆肥の利用をしていて、大事なことはわかるが自分ではなかなか難しい。マンション等の住民には堆肥化は難しいが、いい取り組みなので、周知していく必要があると思う。
- ・燃えるごみ、燃えないごみを分けても、最後、四日市市で処分されることを知っているからこそ、四日市市との違いについて納得することはなかなか難しいのではないか。
- ・前回も意見を言って、アンケートでも結果が出ていて、納得できるようなPRをしていただきたい。

三村委員

- ・私は賛成の意見である。四日市市にごみの処分をお願いしているのであれば、礼儀として分別もせずに出すのはどうかと思う。先日も焼却場の事故の報道があったが、何でもかんでも捨てるのはどうか。できるだけ排出量を減らすためにも、現在のやり方を続け

ていくべきである。

高柳委員

- ・ごみの処分は、伊賀市で行っていると思っていた。四日市市で燃やしているものと燃やしていけないものを分別については如何か。

寺本清春委員

- ・四日市市では処理施設において焼却時に電気にして売電しており、熱効率のためペットボトルを焼却できるものとして捨てている例もあるが、川越町では資源ごみとしてクリーンセンターで回収している。
- ・生ごみについても、草を入れて堆肥にしているのでクリーンセンター、また、四日市市の施設を機会があれば、見学していただくのもよいかと思う。

伊藤委員

- ・私たちも、ごみ回収後については知らないことも多くあり、流れが見える化し、周知・教育していく必要がある。廃品回収もやっているなので、子どもが学ぶことで、親も分別について理解を深められるとよい。

大塚会長

- ・見える化は重要な視点であるが、見える化によって、四日市市で一緒に燃やしているのだから分別しなくてもいい、という意見にならないよう注意が必要。
- ・私は敷地をゴミステーションとして提供しているが、きれいに使われるならばよいが、何でもかんでもとなると、提供者としては複雑な感情が生まれる。

先浦委員

- ・全体的なことで、満足度平均値の上昇については、統計的に見ても評価して良いと思う。
- ・標本調査なので、前回と回答者が違っても、川越町の住民が満足している、との理解でいいかと思う。
- ・重要度は社会的な要請に左右されるものであり、対応する各施策の社会的な位置づけが高まっていると考えられる。
- ・「推移注目項目」の空き家対策、ふれあいバスなどについて、今後、少子高齢化が進んでいくと、川越町でも顕在化してくると考えられる。
- ・その前に先行地域を例に調査研究し、いずれ来る問題として早期に対応し、次の施策に活かしていただきたい。

大塚会長

- ・非常に重要な視点で、「推移注目項目」について、重要度が上がっているものは、社会的要因もあるが、住民の問題意識が高まってきていると考えられる。
- ・ごみの施策について、皆さんの意見を整理すると、子どもを含めて、更なるPRを行い、町民の環境への意識を高め、環境に配慮した取り組みを進めていく必要があるということ。

杉本委員

- ・地域を良くするための活動に参加していない人は6割となっているが、川越町への転入者が多くなっていることが数値として現れたのではないかと考えられる。

- ・よいまちづくりには住民の参加が不可欠であり、組や地区単位で参加しやすい環境づくり、取り組みを進める必要がある。

大塚会長

- ・若い世代が増えているが、この世代がまちづくりに参加する必要がある。
- ・若い人の参画を進めているが、新しい住民が地域活動の担い手になっていない状況をどう考えていくか。

寺本清春委員

- ・活動については地域性があり、祭りがある地域では、子どもが参加すると、祭りをきっかけに、地域の中で友達ができて、地域での繋がりも生まれている。
- ・親の年齢層が自分から参加することはなかなか難しいが、子どもを通じて親の年齢層の活動参加のきっかけづくりを促したい。
- ・地域にあまり関わりがない人の6割というのは、ネット回答を見ても、転入者とのバランスの話であり、町になじんでもらいながら、子育て世代が時間をかけて地域コミュニティに参加していくことで、将来的には緩和されていくと考える。

大塚会長

- ・私の経験になるが、新しく来られる方の中には、地域の関わりを求めて戸建住宅に住んでいる人もいる。そういう方々が活動できるように、周りの理解、協力も必要で、たとえ少人数でも新しく入ってくる人と一緒にやっているとよい。

水谷委員

- ・町の取り組みに関して、地区単位での活動が多いが、自治会に入らない人も増えてきている。
- ・ごみの問題についても、管理しないと使っていけない、ごみステーション監視をしないと守れない人がいるのが現状で、そのため防犯カメラを設置しようとする動きもある。
- ・各地区では役員も含め努力しているところが多いが、アンケート評価での重要度が低いというのはやるせない。

大塚会長

- ・各地区での活動が厳しい状況にあり、行政の支援なども交えながら、従来の行事を継承するだけではない、新たな取り組みもあるとよい。

水谷委員

- ・今までどおりではなく、若い人も関心を持つようなものを調査し、行事として取り組んでいくべきで、色々と意見を聞いている。

伊藤委員

- ・若い人や転入者については、関心がないわけではないと考える。散歩コースや歴史探訪、季節の花など、親子で散策することができるような場所を紹介するマップがあればいいと思う。
- ・川越町の各地区の見どころ等の情報発信ができ、できればクリーンなふれあいバスに乗って、イベントなどもあれば利用者も増えるのではないか。
- ・インターネットや広報からのお知らせをして、コミュニケーションの点では、交流でき

る場所の提供も大事である。

大塚会長

- ・今までは町のPRを外に向けて発信することが考えられてきたが、町民向けに発信し町への愛着を醸成していくことも必要である、という意見。

伊藤委員

- ・早川酒造部をめぐる近鉄とコラボしたイベントでは、町外からも大勢の方が来ていた。

大塚会長

- ・他にもご意見があると思うが、時間もあるので、次の項目に移りたい。

(実績評価について)

大塚会長

- ・議事2の「実績評価について」事務局より説明をいただきたい。

事務局（吉野課長）

- ・各事業、施策の自己評価ということでご理解をいただきたい。アンケートや委員の皆さんの意見を踏まえ、後期計画の検討を行っていきたい。
- ・資料3（施策毎の実績・評価のまとめ）に沿って説明。

先浦委員

- ・目標値達成状況の評価は、達成、未達成が半分ずつとなっているが令和7年の中間目標に対してでよいか。
- ・コロナ禍の影響もあり達成に至らずというのが散見されるが、今後、最終目標を掲げるうえで、見直しが必要な項目もある。

事務局（吉野課長）

- ・コロナ禍から戻りきれない事業は多々あり、後期計画においては、各指標の数値を再度見直し、また新たに指標を加えるなど検討する必要があると考える。

大塚会長

- ・コロナ禍による活動制限によるもの、それ以外で達成に至らなかった要因については何かあるか。

事務局（寺本）

- ・影響が出たものについては、がん検診受診率、ボランティア連絡協議会の団体数、青少年育成活動参加者数、スポーツレクリエーションのイベント数などが挙げられる。

大塚会長

- ・自己負担を伴うようなものなど、制度が活用されにくい指標などは如何か。

事務局（吉野課長）

- ・行政だけでは達成できないものが、結果として達成に至っていない傾向がみられる。住民を巻き込んで何かするものについては上を目指すため目標を高めに設定していることもあり、その部分が達成に至らなかったと感じている。
- ・金銭的な自己負担が関係するものに加え、防災訓練への参加、消防団への加入といった地域活動など金銭じゃない部分での住民の負担もあると考える。

大塚会長

- ・サポートの養成講座を開催したが、実際に活動に繋がらなかった理由については如何か。

事務局（吉野課長）

- ・福祉協力員になってもらうために養成講座を開いたが、受講はしてもらえないものの福祉協力員として任命し、地区で活動してもらうとなると、そこまでには至らなかったと聞いている。

三村委員

- ・評価項目についてはそれぞれ位置づけ、重要度が違うと思う。一律に上げるのではなく指標によって重要であるものとそうでないものを分けるべきではないか。

事務局（寺本）

- ・総合計画は町の全体的な方針であり、重要である、重要でないと区別するものではないと考えている。それぞれの具体的な方針については分野別の計画において示しているためご理解いただきたい。

大塚会長

- ・目標値の数字をもって未達成ということではなく、一つの目安として、お考えいただければと思う。

早川委員

- ・中学校の不登校は40名を超えており、町議会としても大変な問題と認識している。
- ・学びの多様性を広げることによって不登校の児童・生徒を減らしていくという不登校対策の施策を検討して取り組んでいただきたい。

川村智子委員

- ・空家対策については、取り組んでいただいているが、空地の対策について。持ち主がわからず、除草などで近隣が迷惑していることがあるが、空地への対策については何か行っているか。

事務局（吉野課長）

- ・環境衛生や防災の面で空家対策はしているが、空地に特化した対策は行っていない。
- ・消防の視点からも、所有者が適正に管理する必要があるため、連絡いただければ対応させていただきます。
- ・現状では空家を壊して、空地にして利活用を進める状況であるが、空地をどうしていくかについては今後の検討課題と考えている。

川村智子委員

- ・特に今の季節は火災の危険があるため空地の除草問題への対策を強化していただきたい。

（今後のスケジュールについて）

大塚会長

- ・議事3の「今後のスケジュールについて」事務局より説明をいただきたい。

事務局（寺本）

資料4（第7次川越町総合計画後期基本計画策定スケジュール）に沿って説明。

大塚会長

- ・スケジュールについて質問等はあるか。

《委員からの質疑なし》

大塚会長

- ・他に意見もないようなので、本日の議事は終了したい。

3. その他

事務局（竹尾）

- ・次回以降の審議会は、後期計画（案）の集中審議となる。
- ・開催時期は7月、8月の2週間の間で3回の開催を予定しており、短期間での開催となるが、ご協力をお願いしたい。
- ・会長、副会長と日程調整させていただき、早めに日程の連絡を差し上げたい。

以上